

「国際金融都市 OSAKA 推進委員会」準備会 議事概要

○と き：令和2年12月23日（水曜日）16時40分から17時30分まで

○ところ：大阪府庁新別館南館 8F 大研修室

○出席者：吉村洋文 大阪府知事

松井一郎 大阪市長

松本正義 公益社団法人関西経済連合会会長

尾崎 裕 大阪商工会議所会頭

深野弘行 一般社団法人関西経済同友会代表幹事

古市 健 一般社団法人関西経済同友会代表幹事

【会議資料】

- ・準備会次第
- ・「国際金融都市 OSAKA」の実現に向けて
- ・国際金融都市 OSAKA 推進委員会 設立趣意書（案）
- ・国際金融都市の実現に向けた推進体制（案）

○準備会趣旨説明

【吉村知事】

- ・本日は、関西経済連合会松本会長、大阪商工会議所尾崎会頭、関西経済同友会深野代表幹事、古市代表幹事におかれましては、お忙しい中、お時間いただきありがとうございます。
- ・大阪府・市、経済界一体になって、国際金融都市をめざしてまいりたいと思います。
- ・今、政府においても、国際金融センターをめざしていこうということで、税制改正等の様々な取組みをしていき、その中で、東京・大阪・福岡を候補地として挙げていただいているところです。
- ・現状、大阪の国際金融都市の力を客観的に分析すれば、まだまだローカルですので、非常にチャレンジングな取組みでもあると思っています。
- ・（国際金融センター指数によると）東京は4位で、大阪は39位です。この状況で、どのように国際金融都市をめざしていくのか。正面から相撲をとるということではなく、大阪の特徴をいかし、エッジの効いた国際金融都市をめざしていきたいと思っています。
- ・それでは、資料「国際金融都市 OSAKA の実現に向けて」に沿って、説明させていただきます。
- ・1 ページ「国際金融をめぐる世界の情勢」についてです。ロンドン、シンガポール、上海、東京、ニューヨーク、香港等、代表的な世界都市がある中で、大阪はまだまだ力がありませんが、アメリカでいえばシカゴのような位置付け、イギリスでいえばエジンバラのような位置づけをめざしたいと思います。東京の一極集中が進んでいますが、国際金融の分野において、大阪の力を発揮したいと思っています。

- ・2 ページ「国際金融における日本の現状」についてですが、株式取引のシェアは、85%が東証に集中しており、完全に一極集中の状況です。
- ・一方、アメリカでは、ニューヨーク証券取引所があるものの、シカゴが 15%、その他は 42%と、分散しています。
- ・新型コロナの影響でも明らかになったとおり、一極集中の弊害は確実にあります。(国際金融センター指数での大阪の位置づけは) 今は 39 位ですが、国際金融の分野における第二の都市をめざしていききたい、エッジの効いた分野で、突き抜けていききたいと思っています。
- ・3 ページ「国際金融都市の実現に向けた国の動き」、4 ページ「国による税制・在留資格の見直し」についてですが、国際金融都市を実現するには、税制や在留資格の見直しが必要です。
- ・政府においても、菅総理の就任以降、「国際金融都市をめざす」と明言されており、税制等についても、対応を取っていくということです。
- ・令和 3 年度の税制改正大綱には、(海外から事業者や人材、資金を呼び込む観点から) 法人税・相続税等の見直しが盛り込まれました。
- ・これまで、相続税は日本での居住期間が 10 年を超えると (国外資産にまで) 課税されていましたが、課税対象外となります。
- ・また、法人税が圧倒的に高いということも大きな足かせになっており、様々な経費の損金算入等についても、改正の動きが出ています。
- ・一方、「在留資格」については、家事使用人の帯同について緩和されることとなっています。
- ・このように、国際金融センターをめざす土壌作りが、国家においても少しずつ進んできている。
- ・5 ページの「国際拠点都市としての大阪の強みやポテンシャル」についてですが、経済規模や情報等を見ても、圧倒的に東京に力があることは明らかです。東京も国際金融都市をめざされていますが、大阪はどういう相撲の取り方をするかということ、今まで持つ強みの部分をさらにいかしていく。全てにおいて戦うのではなく、強いところをより強める方針で進めていきます。
- ・さらに、大阪は歴史的な背景として、先物取引の発祥の地です。堂島での世界初の米の取引については、世界的に有名です。先物取引、デリバティブを扱うインフラは強みですので、この強みを徹底的に追求していこうと思います。
- ・また、大阪・関西万博の新しい分野や新しい技術を、金融の分野にも活かし、エッジを効かせ、ブティック型の国際金融都市をめざしていききたいと思います。万博や I R、あるいはスマートシティ、スタートアップといったグローバル拠点、うめきた 2 期等、様々な新しいイノベーションを創出していきます。このインパクトを活用しながら、新しい技術革新を取り入れた国際金融都市をめざそうと思います。
- ・6 ページの「大阪が目指す国際金融都市像」についてですが、大阪の強み・歴史・ポテン

シャル・万博開催の効果を活かし、東京とは異なる個性・機能を持ったエッジの効いた国際金融都市をめざしていききたいと思います。

- ・大きな方向性としては二つです。一つ目は、「革新的な金融都市」です。「E S G投資の推進」や、「規制緩和等を活用した、国内外からの運用資金や金融人材の集積」、「金融事業における最先端の技術による新たなマーケットの創造」等をめざしていきます。
- ・二つ目は、先物取引の強みを活かし、「アジアのデリバティブ都市・大阪」をめざす。
- ・7 ページの「国際金融都市の実現をめざす意義・効果」についてですが、金融は「経済の血液」と言われていますので、大阪万博や I R、うめきた等、大阪府市一体の成長戦略を実行していく中で、「経済の血液」を、大阪において循環させていこうということです。
- ・東京一極集中という中で、特定の分野における国際金融都市としての役割を、大阪も果たしていききたいと思います。(国際金融都市実現の効果は)世界から様々な優秀な人材や資金情報が集まり、健康関連分野の産業等、大阪の強みとなる分野への投資意欲が喚起されることとなります。府内のスタートアップの資金の供給にもつながっていきます。また、雇用の創出や経済波及効果も期待しています。国際金融都市の実現は、大阪にとって大きなメリットがあると考えています。
- ・大阪都構想は否決されましたが、副首都・大阪の実現は着実に進んでいる中で、金融の分野でも力を入れていききたいと思います。
- ・8 ページ「大阪における具体的な取組み(たたき台)」についてですが、国際金融都市を実現させるためには、実行力のある民間事業者の皆さんと、行政との連携が不可欠です。そこで、官民一体となった事業体組織を立ち上げていききたいと思います。
- ・大阪府・市が中心的な役割を果たしながら、経済界、国、民間事業者、大学、それから金融機関、取引所等に参加いただき、来年を目途に、官民一体の推進組織を作っていきたいと思っています。
- ・その中で、大阪のビジネス面や生活面での環境整備を議論していきます。ビジネス面では、大阪への進出事業者へのインセンティブの付与や、生活面では、行政が主体的かつ積極的に環境を整えていきます。加えて、市場で活躍する海外プレイヤーの誘致・育成等、官民一体の組織で、やるべきことを整理し、実行していききたいと思います。
- ・9 ページ「今後のスケジュール」についてですが、本日、経済界の皆さんと国際金融都市実現に向けた挑戦を表明し、方向性を共有させていただきたいと思っています。
- ・そして、2021 年の 3 月末までに、官民一体の推進組織を立ち上げ、アドバイザーボード等を設置し、実施可能な取組みから順次スタートしていききたいと思います。
- ・2021 年度以降については、官民一体となって、金融関連事業者の誘致に向けたプロモーションや、人材の育成等、様々な具体的な取組みを推進していききたいと思います。そして 2025 年の万博を目途とし、どこまでできるかという問題はありますが、国際金融都市 OSAKA の実現をめざしたいと思います。具体的な成果指標、目標等については、今年度中に設立する推進組織の中で、決定をしていききたいと思います。
- ・非常にチャレンジングな取組みになると思いますが、経済界と行政が一体になれば、国際

金融都市の実現は可能であると考えていますので、よろしくお願いいたします。

○意見交換

【松本会長】

- ・大変、チャレンジングなプログラムです。私も昔、ロンドン・メタル・エクスチェンジ（ロンドン金属取引所）のファンクションをここにもってこようと思ったんですが、駄目でした。
- ・外部環境の整備と、それから人材がどうしても集まらなくて、結局需要が少なくて日本版ロンドン・メタル・エクスチェンジはやめたという経緯があります。
- ・そういう意味において、今、吉村知事が一生懸命説明をしておられましたが、これは万博より難しいかもしれません。
- ・皆さんと3、4年かけて（万博の）誘致を一緒にやってきましたが、これ（国際金融都市の実現）には、エキスパートな知識が必要です。
- ・今月、次年度の税制改正大綱が取りまとめられましたけれども、海外の高度金融人材の呼び込みに繋がる環境整備がこれから政府主導で進められていくものと考えます。
- ・こうしたフォローの風が吹く中で、大阪府・市を中心に金融機関、教育機関、我々経済団体などが一体となって、国際金融都市・大阪の推進に取り組むことは、都市圏の多極化をめざすものでありまして、大阪・関西ひいてはわが国全体の成長に繋げる観点から意義があるものと考えております。
- ・ただし、大阪が国内外から国際金融都市と認められるためのハードルは、正直に言って非常に高いと思っています。依然、多くの課題をクリアする必要があると考えております。
- ・例えば、検討課題は3点あると思っています。
- ・1点目は、ビジネス環境の整備です。これは言うまでもないことです。様々な規制について、政府を中心にクリアいただくことが誘致成功の前提条件として必要であります。特に税制の問題は、非常に重要なポイントになってきます。
- ・2点目は、構想の検討にあたり、大阪の強み・弱みなどを精査した上で、大阪がどのような国際金融都市をめざすべきなのか、これは先ほど吉村知事が言及しておりましたけれども、どんな金融都市をめざすべきなのか、また大阪が担うべき機能とは何なのか、そして、そうした機能を発揮するために、どのような課題を乗り越えなければならないか等をより具体化してディスカッションしていく必要があります。タイムイズマネーですからスピーディーにやる必要があると思います。
- ・3点目は、他地域との連携です。例えば神戸はインターナショナルスクールが大阪より充実していますが、さらに充実させる等外国人材にとって生活する上で魅力があるようにしなければなりません。国際金融都市の実現には、他の都市、地域との連携を、大阪・関西としての連携を意識しながら取り組む必要があると思います。
- ・今回の国際金融都市の推進に向けまして、建設的な観点からその取組みに貢献してまいりたいと思います。

【尾崎会頭】

- ・今、吉村知事が熱意を持って、色々と説明していただきましたが、商工会議所としても、国際金融都市 OSAKA をどうすれば実現できるかということについて、府・市・他の経済団体と協力して、アイデア出しはやらしていただきたいと思います。
- ・今年の 7 月に大阪取引所が統合して、金融商品と先物を一緒にやろうということになりました。そのときに、6 つほど大阪商工会議所としても提言させていただきましたので、ある意味では、商品も含めて、大阪の取引所がアジアの金融先物の機能を担うようにどうしたらなるのかということを考えていくのが早いと思っています。
- ・残念ながら、大阪取引所の取引高、出来高が非常に増えたということもありませんし、なかなか当初思っているよりも苦戦しているのではないかと思います。
- ・その一つは、やはり魅力ある商品がないのだと。これは知事もおっしゃったように、大阪でこのようなものが取引されていて、面白いと言いますか、色んなビジネスがあるということはどうやって作り上げていったらいいのだろうかと思っていますので、既存の大阪取引所をまずは魅力あるものにして、世界の人が入ってくるようにする必要があります。
- ・時差の関係で、アメリカ（の取引）が終わった後、日本（の取引）が始まるので、そこで取引がされているようですけども、もう少し知事のおっしゃるエッジの効いた商品を作っていく必要があるのかなと思います。
- ・そういうふうに発展していくと、大阪の一つの成長の活力になることは間違いないですし、魅力も必要だと思いますし、大阪が産業都市として、また文化都市、それから学術都市として発展していくためにも、金融機能は必要な要素の一つです。そういう点では、ぜひ、金融機能を高めるということをやりたいと思っています。
- ・ただ、話がずれるのですが、大阪から新しいビジネスを起こすスタートアップということもこれからやっていかなければいけないのですが、スタートアップに対して必要なことの一つはキャピタルですので、そういうキャピタルが大阪に集積してこない、新しい産業というのは生まれてこないという点では、やはりキャピタルをどうやって大阪に集めるかということ、知恵を出していかなければならないと思っています。
- ・それから松本さんもおっしゃいましたように、色んな人が集まるということになると、家族が来られ、ここに住んでいただくことになります。そうすると、住むことに魅力がないと、絶対に来ていただけません。
- ・金融だけではなくて、スタートアップやベンチャーも大阪・関西に住めばこんなに良い環境だということが分かったら集まってきます。
- ・これは、一極集中じゃないですが、集まり出すと、どんどん集まってくると思います。だから、その種蒔きをどういうふうにやっていくかということと一緒にやっていければと思います。
- ・2025 年には万博がありますので、世界の目も大阪に向けられるということ間違いなくと思いますし、その後も IR が来ます。ハードルは高く、ものすごい高い山に登らないと

いけないのは分かっていますけれども、チャレンジするいい時期かもしれないと考えております。

【深野代表幹事】

- ・国際金融都市は大変チャレンジングな目標だと思えますし、いったいどういうレベル感のものを狙っているのか、あるいはいったいどこに重点を置いていくのか、この辺りについては、おそらく色んな考え方があると思えますので、これから推進委員会などで議論を深めていくことになろうと思えますし、我々もぜひ、協力させていただきたいと思っております。
- ・切り口は三つほど頭に思い浮かぶのですが、一つはフィンテックでございます。ブロックチェーンの活用も含めて、これからの成長が期待されますし、ベンチャー企業の苗床にもなるものがございますので、これ一つのポイントかと思っております。地域通貨とか、そういったことにもフィンテックのブロックチェーンの活用というのはいり得ることだと思っておりますので、そういう展開は一つあると思えます。
- ・それからもう一つは、大阪取引所でございます。デリバティブを扱う取引所として、ようやく位置づけがされているわけございまして、こういったものを上手に活用していくということは、重要なポイントになると思っております。
- ・それから三つ目のポイントは、若干危機管理的なことになりますけれども、東京に全ての機能を集中しているのか、という点でございます。そういったことを含めまして、ナショナルプロジェクトとして、国も含めて戦略をもって取り組む必要があると思っております。また、税や金融制度のような国レベルの対応が必要なこともあると思えますが、国と連携して取り組むことは不可欠と感じております。
- ・ただ、大阪取引所を総合取引所とするにも、非常に時間がかかっておりまして、総合取引所の構想を打ち出したのが、おそらく2010年ぐらいだったのではないかと思いますけれども、それから、ようやく最近になって、形ができたということございまして、また取り扱っている商品についても、まだ非常に制約がございます。
- ・これまでのことを見ていると、なかなかスピード感をもって取り組んでいくということになっていなかったので、今回、これを機会に併せて進めていく必要があると思っております。

【松井市長】

- ・国際金融都市（の実現）は、色々と難しい話が出ていますが、そもそも日本で国際金融都市をさらに広げていこうというのは、東京はある程度の形が見えてきていますけれども、香港の情勢が一国二制度のもと、なかなか自由に経済活動や発言ができる機会が奪われるような形が見えてきたと。そのような状況の中で、香港の役割をぜひ、日本・大阪でできないだろうかということで議論が盛り上がってきたと考えております。
- ・国際金融都市というのは、簡単に申し上げますと、世界の投資家が集まる場所を作ってい

こうということですので、非常に高い山を登ることになるのですが、一段一段、一歩ずつそういう皆さん方に求められるエリアを作っていくのが、一番現実に即したもののかなと思っております。

- ・先ほども経済界の皆さんからも様々なご指摘があったように、やはり投資ができるような商品をまず作っていく。そして、その皆さん方が快適に住み、暮らせるサービスを拡充させる必要があります。
- ・投資できる商品というのは、我々は幸いにして 2025 年万博という機会を持っていますので、尾崎会頭がずっと取り組んでいただいています。中小企業の皆さんも新しいものを開発するために様々な努力をされていますし、そういう皆さんの商品の壮大な実験場として、夢洲の万博会場があるわけですから、そこへ向けて、商品を作ること、世界中の投資家の投資意欲を引き上げて、盛り上げていきたいと思っております。
- ・そして、快適に住み、暮らしやすいというのは、やはり生活の上では、医療の提供体制が重要です。これも大阪においては、高度な治療について、例えば大阪国際がんセンターでは、世界の難治がん患者の皆さんにも治療をスタートしていますし、それをさらに拡充していく。そのためには、もちろん規制緩和も必要であります。
- ・また、インターナショナルスクールについては、ここ数年の間に、バカロレアの学校も少しずつ増やしてきましたし、東京と比べるとまだまだ少ないですが、さらに数を増やし、質も向上させる、そういうことを一つ一つ積み上げていくことで、この高い山に登れるのではないかなと思っております。
- ・本当に一朝一夕にやれる話でもありませんから、世界の投資家の皆さんのニーズをしっかりと把握をして、具体的に一つ一つ施策を実施していくということが、重要だと思っております。
- ・大阪府、大阪市、そして経済界、民間の事業者が一体になって、我々もその役割分担のもと、具体的にやるべきことをスピード感を持って実現したいと思っておりますので、皆さんよろしくお願いいたします。

【吉村知事】

- ・国際金融都市をめざすというのは、非常に大きなチャレンジだと思っております。今の大阪の力を冷静に分析したときに、果たして本当にできるのかと。世界から見た大阪は、非常にローカルなエリアだと思っております。
- ・ただ、大阪はこれから 2025 年の万博をめざしていき、そして IR も誘致する。先ほど松井市長からもありましたけど、ライフサイエンスの分野で非常に強みを持っているという中で、やはり海外の皆さんから見た大阪の魅力というのも非常に高いところにあるというのも、事実であると思っております。
- ・住環境、インターナショナルスクール、医療、言語の課題など、様々な課題はあると思っております。この穴をこじ開けるのは非常に難しいというのは、私自身もわかっていますが、ただチャレンジするとすれば、今しかないと思っております。

- ・税制は非常に大切だと思っていますし、国の動きも大切だと思っています。今、この分野に取り組むため、規制も緩和していこうと総理も旗を揚げられています。その中で、複数都市ということであれば、これはもちろん大阪にも十分そういった力、ポテンシャルがあると思っています。
- ・どうやって穴をこじ開けていくのかということについて、今日は大きな方向性をぜひ経済界の皆さんと共有させてもらいたいと思います。どうすれば、この穴をこじ開けていけるのか。正式な推進組織を立ち上げて、先ほど松本会長もおっしゃった課題の整理であったり、尾崎会頭がおっしゃった種まきのやり方であったり、深野代表幹事がおっしゃったスピード感であったり、様々な分野で課題も整理しながら、一つ一つクリアしていくことで、短期間での実現は困難だと思いますが、着実に大阪の力を発揮する中で、国際金融都市もぜひめざしてまいりたいと思います。
- ・今、相撲でいくと、十両にもなっていないぐらいかもしれませんが、その力を見極めた上で、特定の分野で走るというのが、僕は一つの活路としてあるのではないかと考えています。
- ・大阪市長のときに、シカゴに行きました。シカゴで先物（取引）を一生懸命頑張っているという証券取引所にも行きましたが、やはりそうやって分散もしながら、特定の分野で一生懸命頑張っている都市というのも、世界にあります。
- ・大阪も一地方都市で終わらせるのではなくて、国際都市をめざすという意味で、ハードルが非常に高いことは重々承知していますけれども、経済界、そして行政が一体になって、このチャンスをどこまで活かせるか。僕自身は、実現できると考えていますので、何とか課題を整理して、特定の分野で尖った、エッジの効いた国際都市をぜひチャレンジをしていきたいと思っています。

【古市代表幹事】

- ・2025年に国際金融センターという目標を置かれています。これについてどうなのだろうかと、少し実現性について疑問があったのですが。今、市長・知事の方から、着実に一步一步、一段一段やっていくということであれば、それは大きな方向性として、明確に出すことに関しては全く同意です。
- ・私も、遠い昔になりますが、30、40年ぐらい前に、シンガポールにいました。その当時間もシンガポールの金融センターというのはそれなりになっていたのですが、香港に比べると大分劣っていたので、税制優遇や様々な改革などを導入して、ようやく今の地位を築きました。
- ・そういう意味では、本当に国際金融センターとなっていくためには、40年、50年のコミットが必要だと感じています。数年で何かできるというよりは、市長の言葉にもありましたけれども、一段一段クリアしていくということであれば、我々も同じ方向性なのかなと感じます。それぐらい非常にハードルが高いですし、その中で、民間としても色々なことを勉強させていただきたいと思っています。

【尾崎会頭】

- ・一般論になってしまうのですが、知事がおっしゃったことに対してですが、やはり何かやろうとしなければ絶対にできないことは間違いないので、やろうということで、一定努力するということに対しては、商工会議所もできるだけサポートしたいと思っています。
- ・しかし、ずっと押し続けても、一ミリも動かなかつたら、それは押した方が疲れてしまうので、大きな成果ではなくて小さなことでも何か一ミリでも動かすということでやらないといけないと思います。
- ・そういう点では、要するに外国人の投資家がどうすれば大阪に来るのか、大阪の取引所をどうしたら使ってもらえるのかということをもまずは考えて、そこからもちろん大きな構想が必要だと思えますけれども、今、どうしたら何が動くのかということも非常に大事だと感じています。
- ・シンガポールや香港のことを考えると、中国への投資などが活発に行われないと東京に勝てるとは思わないですし、他の都市にも勝てるとも思いません。
- ・なかなか中国は難しい相手ですので、どのように中国のゲートウェイのようなところを取り込んでいくかということも考えないといけないと思います。追々、そういうことを検討していただければと思います。

【松本会長】

- ・ロンドン・メタル・エクスチェンジ (LME) は直物もありますが、デリバティブ (が中心) です。それは、LME は香港の取引所に買われてしまいましたけれども、需要があるから、香港と LME、ロンドンとが一体となって売れるものを持っているということです。
- ・これは商売と同じです。売れるものがないと、いくらビルディングを使ってお金を投資しても、お金が動きません。このポイントを本当に考えないと、作ったもののお客さんが来ない、売れるものはないということでは、潰れてしまいます。世界をみてもフランクフルトもあるわけで、ここのポイントを逃さないように制度設計をしていかないと、売れるものがないとお金が入ってきません。
- ・それから、大阪から外に投資するというようなことになっても、どれだけ大阪にお金を集めるかというのは、また違う方法でないといけません。
- ・これから委員会ができますが、本当にディスカッションをしておかないといけません。形を作ったものの、一年後にお客さんがいなくなればこれは問題ですので、経済界も吉村知事がやることに対してネガティブじゃないのですが、よく準備してから取りかかるべきだと私は思っています。

【深野代表幹事】

- ・今、松本会長が言われた話にも関係するのですが、今ある材料をどう磨くかというのが、すごく大事だと思っています。その中の一つの重要な材料が大阪取引所だと思います。こ

それをどう魅力を高めていくのかというのが、一つ大きなテーマになると思っています。

- ・大阪取引所で今商品先物をやっていますが、これがこちらに来たのも比較的最近で、元々は東京でずっとやっていたわけですが、ようやくそういうものがこちらにきて、他の金融デリバティブと一緒に取引ができるようになりました。これである程度魅力が上がったのですが、ただ、まだ一部しか来ていませんので、まだ色んな商品が全部大阪で扱えるようになっているわけではありません。
- ・そういうことも、もっと幅を広げると、海外の都市から見ても魅力のあるものになるということも課題として残っております。そういう地に足に着いたことも含めて、どうやって今の足元の材料を磨き上げていくかというのは、随分考える価値はあるのではないかと思います。ただ、これは政府がその気になってくれないとできないところでもあります。

○「国際金融都市 O S A K A 推進委員会」の設立

※「国際金融都市 OSAKA 推進委員会」の設立について、官民一体の「設立趣意書案」及び「推進体制案」の概要を大阪府大中企画室長より説明。

本案をもって、「国際金融都市 OSAKA 推進委員会」の設立趣意書を決定。

【吉村知事】

- ・松本会長のご発言でもありましたが、課題をきちんと整理して丁寧に進めていきながら、国際金融都市 O S A K A 推進委員会の中で、じっくり議論していきたいと思います。非常に高いハードルではありますが、チャレンジするとすれば、今のタイミングだと思っていますので、経済界、大阪府・市が同じ方向を向き、そして国も国際金融都市の実現を表明している、まさに今のタイミングで、チャレンジしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上